

横浜総合高校の再整備について

1 再整備の方向性

横浜総合高校については、県立大岡高校跡地（南区）へ移転し、再整備します。

2 理由

（1）経緯

横浜総合高校の校舎棟は、昭和45年に建築されて40年が経過し、耐震補強が必要と診断されていることから、早期の着手を目指して、耐震対策の検討を進めてきました。

（2）現地耐震対策の困難性

耐震対策にあたって、現地で耐震対策を行うことには次のとおり様々な課題があります。

- ・ 授業が3部制であることから、耐震工事を行う場合は深夜の工事が中心となり、また、校舎が7階建て約13,000㎡と規模が大きく特殊な構造であるから、工事が長期に及ぶ可能性があります。
- ・ 教室内の工事にあたっては、教室の移動を繰り返すなど、授業への影響や生徒への負担が大きくなります。
- ・ 施工後は、教室が小さく区画されたり、教室の一部が使用できなくなるなど、学習環境が損なわれる可能性があります。

（3）移転再整備の検討

現地で耐震対策を行うことが困難なことから、他の場所への移転も含め検討を行っていたところ、予定されていた南区総合庁舎の県立大岡高校跡地への移転が難しくなったという状況になりました。

そこで、県立大岡高校跡地に横浜総合高校を移転させ、旧大岡高校の校舎を使用することにいたします。

大岡高校跡地への移転再整備のメリットは次のとおりです。

- ・ 旧大岡高校校舎を活用し、早期の耐震対策が可能となります。
- ・ 現在より広い敷地や校舎を活用して、教育内容の充実を図ることができます。
- ・ 最寄り駅（市営地下鉄弘明寺駅）から近く、また、横浜国大付属中学校など学校関係施設も多くある地区であることから、より良い教育環境が整います。

（裏面あり）

3 整備スケジュール（予定）

- ・ 22～23年度 基本設計・実施設計
- ・ 24年度 改修工事
- ・ 25年度 移転

4 その他

- ・ 今後、保護者等へは5月に行なわれるPTA総会等、説明会を行っていく予定のほか、地域等へも説明を行なっていくなど、きめ細かく対応していきます。
- ・ 移転整備にあわせ、教育課程の見直し等も行なっていきます。

【参考】 横浜総合高校、旧大岡高校施設概要

<横浜総合高校>

- ・ 所在地 中区翁町2-9-10
- ・ 敷地面積 約 8,300 m²
- ・ 校舎等 約 13,000 m²

<旧大岡高校>

- ・ 所在地 南区大岡二丁目29-1
- ・ 敷地面積 約 17,400 m²
- ・ 校舎等 約 14,700 m²

【旧大岡高校配置図】

